誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島を目指して

明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、日頃から、県政の推進に多大な御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、我が国は、本格的な人口減少や少子高齢化の進行、不安定な海外情勢等による物価の高騰、デジタル化の進展、カーボンニュートラルの実現など、社会経済情勢が大きく変化しております。

県としては、これらに的確に対応しつつ、本県の基幹産業である農林水産業、観光関連産業など鹿児島の「稼ぐ力」の向上、地域や各種産業を支える人材育成、結婚・妊娠・出産・子育てしやすい環境の整備や高齢者が健やかで生きがいが持てる社会の形成など、「かごしま未来創造ビジョン」に掲げた各般の施策に積極的に取り組むことにより、「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」を目指してまいります。

昨年1月の能登半島地震では、道路の寸断、電気・水道・通信等のライフラインの損傷など甚大な被害が発生し、集落の孤立、避難生活の長期化など様々な厳しい状況が生じました。

また、県内では、8月の日向灘を震源とした地震や台風第10号、11月の与論町における記録的大雨などにより、大きな被害が発生し、改めて、自然の脅威と不断の防災・減災対策の重要性に思いを致した年でした。

県としては、頻発する自然災害から県民の生命・財産を守るために、能登半島地震などを踏まえ、今後とも、県地域防災計画の見直しや各種防災訓練の実施、河川や道路の整備などを行い、防災・減災対策に積極的に取り組んでまいります。

一方で、明るい話題もありました。

奄美群島の振興については、3月に「奄美群島振興開発特別措置法」の改正法が成立し、7月には新たな「奄美群島振興開発計画」を策定しました。県としては、国や市町村等と連携して着実な事業の推進に努め、我が国の地域振興の先進地域となるよう、奄美群島の振興・発展に一層全力を尽くしてまいります。

鹿児島空港の国際線については、7月に上海線が再開されたことにより、コロナ禍前に就航していたソウル、上海、台北、香港の4つの路線全てが再開されました。乗り継ぎ便を含めて様々な国から鹿児島を訪れていただく環境が整いつつあると考えており、今後とも「南の宝箱　鹿児島」の魅力を発信し、更なる誘客の促進に取り組んでまいりたいと考えております。

7月から8月にかけては、国内外から著名な音楽家をお迎えして「第45回霧島国際音楽祭」を盛大に開催しました。今回は、第45回を記念して、東京での特別公演も開催しました。今後とも、アジアを代表する音楽祭として、更なる充実・発展を目指してまいります。

10月には、佐賀県において「SAGA2024国スポ・全障スポ」が開催されました。一昨年の「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」と2年連続での九州開催となることから、両大会を「双子の大会」と位置づけ、互いの大会を盛り上げてきました。今後とも、佐賀県とは様々な分野で交流を行い、両県の更なる関係深化を図ってまいりたいと考えております。

11月には、「和牛といえば鹿児島県産。」のイメージの定着を図るため、「和牛日本一鹿児島」をキャッチコピーとし、統一ロゴマークを決定しました。今後とも国内外での県産和牛の一層の認知度向上や販路拡大に努めてまいります。

12月には、本県の本格焼酎を含む伝統的酒造りがユネスコ無形文化遺産に登録されることが決定しました。県としては、これを好機と捉え、本格焼酎の国内外への認知度向上及び販路拡大に取り組んでまいります。

また、同月に、徳之島の生物多様性や雄大な自然の魅力を伝える施設として、「徳之島世界遺産センター」が開所しました。今後とも、自然環境の保全と利用の両立に向けた取組を進めてまいります。

私としましては、今年も様々な取組を通じて、「稼ぐ力」の向上を図ることにより、今後の鹿児島の発展の基盤をしっかりとつくっていく必要があると考えております。

今後とも、「県民の皆様と一緒に鹿児島の今と未来をつくる」ということを基本として、「誠実に」、「着実に」県政の推進に全力を挙げて取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層の御理解・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、県民の皆様にとりまして、新しい年が輝かしく幸多い一年でありますよう、祈念申し上げます。

令和七年 元旦

鹿児島県知事　**塩田 康一**

磯海岸から望む桜島と朝日（鹿児島市）